



ENEOS

2020年11月25日
ENEOSホールディングス株式会社

第51回 ENEOS童話賞 受賞者表彰！

- <一般の部> 最優秀賞:「長ネギ1本」 佐藤 悦子さん(神奈川県鎌倉市)
<中学生の部> 最優秀賞:「紫の紫陽花が咲く日には」 小川 桃葉さん(東京都三鷹市)
<小学生以下の部> 最優秀賞:「ひとり図書館」 古屋 璃佳さん(山梨県笛吹市)

ENEOSホールディングス株式会社(東京都千代田区 代表取締役社長:大田勝幸)は、「第51回ENEOS童話賞」の受賞者を表彰いたしました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、表彰式の開催を中止いたしましたが、受賞者の皆様には賞状・記念品などを贈呈し、表彰いたしました。

◆ENEOS童話賞とは

「心のふれあい」をテーマに、毎年一般の方々からオリジナルの創作童話作品を募集し、優秀作品を選出しています。1973年に作品の初公募を開始し、これまでの応募総数は39万編を超えました。51回目を迎えた今年も、3部門合計で14,068編(一般の部10,248編、中学生の部2,432編、小学生以下の部1,388編)のご応募をいただきました。

<選考委員(敬称略)> 西本鶏介(児童文学者)、立原えりか(童話作家)、角野栄子(童話作家)
中井貴恵(女優・エッセイスト)、宮西達也(絵本作家)、薫くみこ(児童文学作家)

◆受賞者のコメント

※カッコ内は現居住区。「氏名」は敬称を省略させていただいております。

※一般の部の年齢は2020年11月25日時点。

<一般の部>

最優秀賞「長ネギ1本」^{きとろ} ^{えつこ} 佐藤 悦子 (神奈川県鎌倉市/46才)

今回受賞のお知らせをいただいた時には本当に驚き信じられない気持ちで一杯でした。

この話は、私が実際長ネギを落とし、男性が拾って自転車で追いかけてくれた体験から生まれました。来た道に戻る後ろ姿に、若いのにネギを持っておばちゃんを追いかけるのは恥ずかしかっただろうなと、その優しさに感謝しました。そして、もしこれがもっと子どもだったらさぞ照れくさいだろうな…と想像してみました。

親切な事をするのは勇気がいるものですが、思いやりや笑顔は、人の心を一瞬でポッとあたたくできる、誰もが誰にでもかけられる魔法のようなものだと思います。ちょっとしたことでも、失敗したと思っても、いつでもどこでもきつと無駄なことではなく、明るい気持ちや未来につながるものだと思います。

「心のふれあい」がテーマの童話賞に選んでいただけた事が大変嬉しいです。どうもありがとうございました。

ENEOSホールディングス株式会社

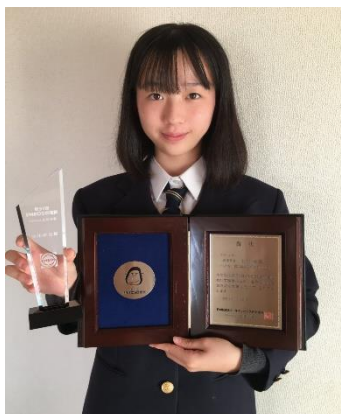
〒100-8161 東京都千代田区大手町一丁目1番2号



ENEOS

<中学生の部>

最優秀賞「紫の紫陽花が咲く日には」^{おがわ ももは}小川 桃葉（東京都三鷹市／中学2年生）



私はこれまで『童話の花束』を数多く読んで来ました。その中で強く惹かれるのはいつも「不思議で美しいお話」でした。私もいつかこんなお話を書きたい！と思ってはいたものの、具体的な内容も浮かばず、焦らずに少しずつアイデアを貯めていくことにしました。

鮮やかな色、雨の音、紫陽花の花と女の子…今回は、少しだけ貯まったアイデアをふくらませて書いたお話を応募しました。そんな私の作品を高く評価していただき、本当にありがとうございました。受賞が決まった時は本当に驚いたと同時に、このお話を多くの方が読んでくださるということに緊張と喜びを覚えました。

まだまだいたらないところも沢山ありますが、夢くて不思議な、夢のような気持ちにひたりながら、この女の子に出会ってくださったなら嬉しいです。そして、何か辛いことがあった時にこのお話を思い出して、少しでも明るい気持ちになってくだされば大変光栄です。

<小学生以下の部>

最優秀賞「ひとり図書館」^{ふるや りか}古屋 璃佳（山梨県笛吹市／小学3年生）



私は、図書館にすみたくらいに本が大好きです。「ひとり図書館」は、私の図書館ごっこからうまれたお話です。

図書館ごっこをして遊んでいる時に、人間の言葉を話せる白いねこが本をかりにきてくれたら楽しいのになと思いました。名前はレオンに決めました。はじめは、レオンとお友だちになれるかなと、ドキドキしましたが、話しかけると、すぐにお友だちになれました。レオンとたくさんお話をして童話を書きました。書いている時は、とても楽しくて、いつの間にか、ちがう世界へぼうけんに出かけているような気持ちになりました。

私は、童話が大好きです。そうぞうすることも大好きです。へんてこなことを考えるのは、もっと大好きです。私は、これからも、大人になっても、童話を読み続けたいです。そして、童話を作っていきたいです。

すばらしい賞にえらんでいただき、本当にありがとうございました。



ENEOS

◆選考委員講評 西本 鶏介先生

今年はコロナ禍にもかかわらず例年よりも数多くの作品が寄せられました。しかし、身近雑記風なお話や寓話じみた作品が目につき、これぞと思えるものが乏しかったように思います。童話というスタイルは人も動物も自然も心を通いあわせることのできるすてきな表現方法です。なにをどんな風に描けばいいのか、これまでに出了『童話の花束』の作品を読んでいただければよくわかると思うのですが。

今回の一般の部の最優秀賞は、ありふれた日常の出来事をユーモラスに描きながら好きな女の子への少年の思いをたくみに描き出しています。地味な作品ですがエピソードの扱い方がたくみです。

中学生の部の最優秀賞は、図書館で出会った不思議な女の子に落ち込んでいた心を救われるファンタスティックな作品。やわらかな感性を持つ文章が魅力的です。

小学生以下の部の最優秀賞は、自分の家で図書館をつくり、その仕事を全部ひき受ける、図書館の大好きな女の子のすてきなお話です。本を借りにくる白い猫とのやりとりも楽しく伝わってきます。猫のくれたゼリーがとてもおいしそう。

◆ENEOSグループの取り組み

ENEOSグループは、ENEOS童話賞入賞作品(佳作以上)をまとめた一冊の童話集「童話の花束」を発行し、全国の教育機関や児童福祉施設、里親家庭などに寄贈しています。また、「童話の花束」は、系列サービスステーションを運営する特約店の皆様にお買い上げいただくほか、ENEOSグループ各社とその役員・従業員にもチャリティー販売を行っています。売上金はすべて「ENEOS童話基金」に組み入れられ、全国社会福祉協議会のご協力のもと、児童福祉施設等の子どもたちを対象に大学や専門学校へ進学する際の奨学金として活用されています。

※ENEOS童話賞の詳細は、「童話の花束」ウェブサイト
(<https://www.hd.eneos.co.jp/hanataba/>)をご覧ください。

以上